



決算補足説明資料

2027年3月期 第1四半期

2026年7月29日



株式会社コア





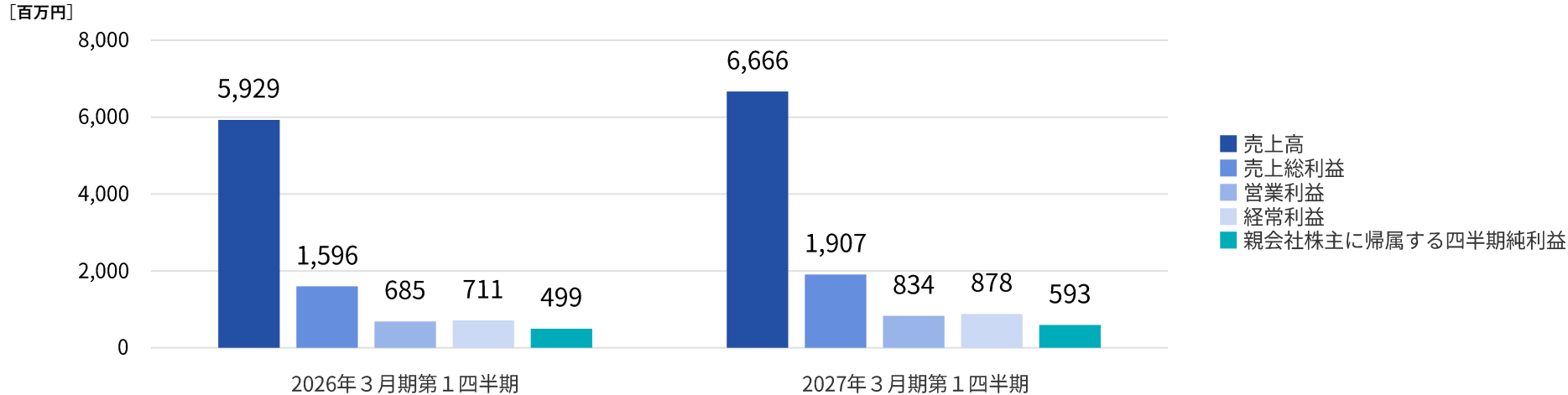
決算概要

前期比で増収増益を達成

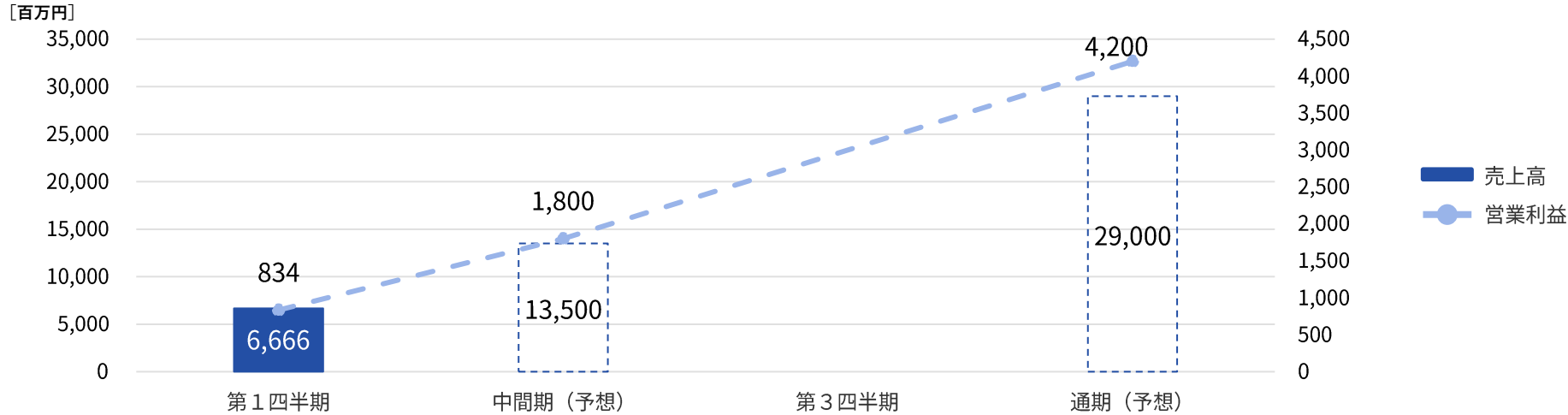
単位：百万円

科目	2026年3月期 第1四半期		2027年3月期 第1四半期	
	金額	前年比	金額	前年比
売上高	5,929	102.4%	6,666	112.4%
売上総利益	1,596	104.6%	1,907	119.5%
営業利益	685	114.8%	834	121.6%
経常利益	711	109.0%	878	123.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	499	109.5%	593	118.8%
受注残高	9,473	105.4%	9,652	101.9%

前年同期比



2027年3月期の連結業績



売上高

前年比

112.4%

- + 未来社会 医療において回復傾向が継続
- + 未来社会 エネルギーにおいて電力会社向けソリューションが伸長
- + 産業技術 IoT・ロボティクスにおいてIT点呼システム「Cagou IT点呼」及びメーカー向けソリューションが伸長
- + 産業技術 ソリューション案件が全体的に伸長
- + 産業技術 半導体関連向けの開発業務が堅調
- + 顧客共創 M&Aの実施により増加
- 顧客共創 信販向けシステム開発および運送会社向けシステム開発の案件縮小

営業利益

前年比

121.6%

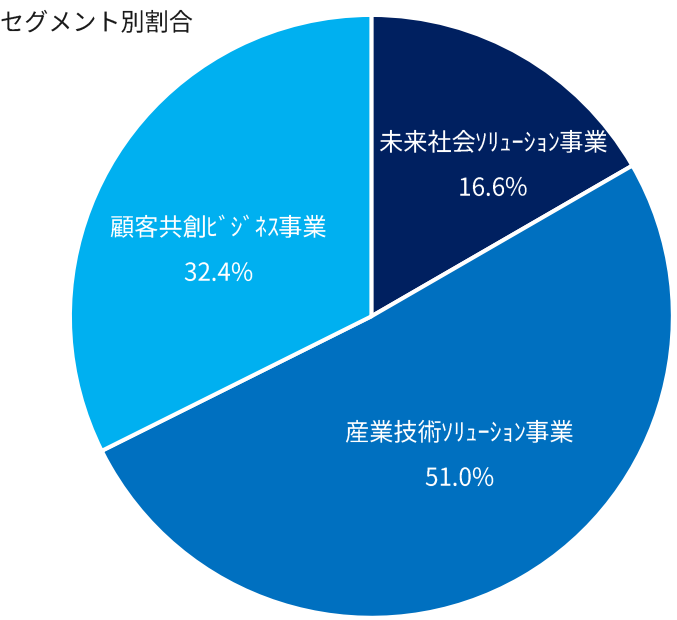
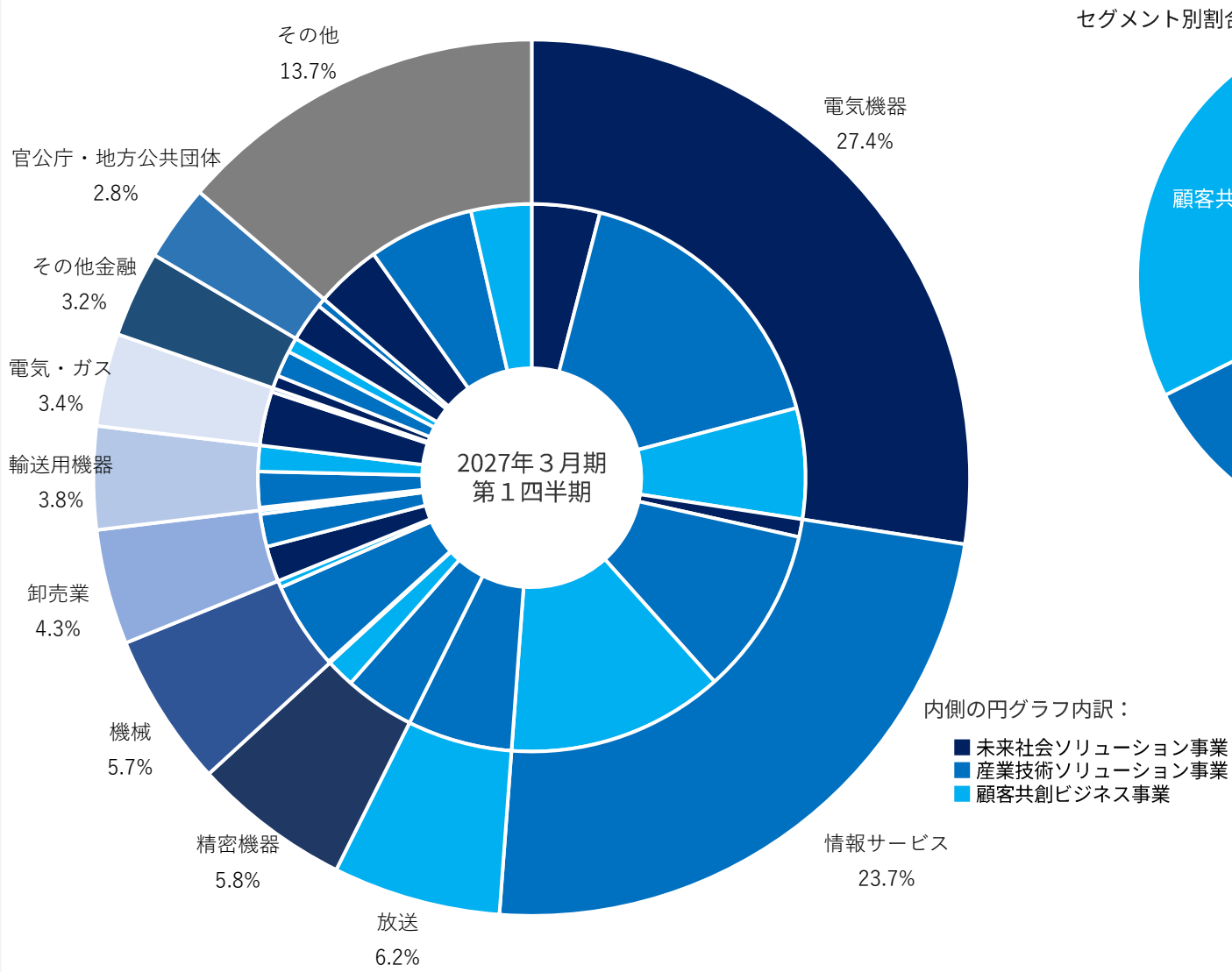
- + 未来社会 エネルギーを中心にソリューション案件が増加したことにより利益拡大
- + 産業技術 IoT・ロボティクス、ソーシャルメディアなど全体的にソリューション案件が増加したことにより利益拡大

単位：百万円

		2026年 3 月期 第 1 四半期		2027年 3 月期 第 1 四半期	
		売上高	売上総利益	売上高	売上総利益
未来社会ソリューション事業	公共	246	92	250	96
	医療	88	△11	129	13
	エネルギー	381	125	484	188
	その他	204	52	245	71
	合計	921	258	1,110	369
産業技術ソリューション事業	IoT・ロボティクス	453	154	614	202
	ソーシャルメディア	436	103	446	116
	宇宙テック	93	26	102	40
	BX	135	41	160	45
	その他	1,985	586	2,074	651
	合計	3,104	912	3,398	1,056
顧客共創ビジネス事業		1,904	425	2,157	480

単位：百万円

	2026年 3 月期		2027年 3 月期 第 1 四半期	
	金額	前期末比	金額	前期末比
流動資産	18,347	112.0%	17,229	93.9%
固定資産	9,821	112.0%	10,844	110.4%
資産合計	28,168	112.0%	28,074	99.7%
流動負債	6,630	110.6%	6,428	96.9%
固定負債	828	131.7%	881	106.3%
負債合計	7,459	112.6%	7,309	98.0%
総資産	20,709	111.7%	20,764	100.3%
負債・純資産合計	28,168	112.0%	28,074	99.7%



中期経営計画への取り組み状況

事業戦略

人材戦略

財務戦略

単位：百万円



未来社会

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年比
売上高	921	1,110	120.6%
営業利益	65	113	172.0%

- 公共分野では、自治体との災害時において生成AIを活用した初動体制効率化・迅速化事例を全国自治体に向けて提案。
- エネルギー分野では、送配電関連システムを中心とした大型開発案件の受注もあり、売上が大きく拡大。
- 医療分野では、医療・介護連携に対する市場の関心の高まりを受け、医療・介護 統合システム「i-MEDIC Plus++」の中堅病院からの引き合いが活発。



産業技術

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年比
売上高	3,104	3,398	109.5%
営業利益	437	577	131.9%

- セグメント全体として売上が堅調に推移。特にIoT・ロボティクス分野で、前年比135.6%と伸長。
- 宇宙テック分野では、JAXA宇宙技術実証加速プログラム(JAXA-STEPS)に「小型衛星用オンボードPPP受信機の開発、軌道上実証」が採択。宇宙空間向け開発ビジネスを立ち上げ。今後打ち上げられる小型衛星への導入を図る。



顧客共創

	2026年3月期 第1四半期	2027年3月期 第1四半期	前年比
売上高	1,904	2,157	113.3%
営業利益	182	144	78.9%

- 製造分野では半導体関連業務が拡大。第2四半期以降も堅調に推移。
- 情報通信分野ではデータ交換システム、決済関連システムの開発が拡大し売上高二桁成長。

電話対応業務における生成AI活用

- 自治体窓口が抱える「電話対応業務の非効率」という課題に対し、山口県山口市と生成AI活用実証実験を実施。文字起こし精度や報告書自動作成機能などで高い評価を獲得。
- 住民対応窓口を持つ自治体にとどまらず、相談業務や民間企業のカスタマーサポート等、同様の課題を持つ幅広い業種から引き合いが増加。公共分野を起点に新たな市場への展開・拡大を推進。

電話対応業務の生成AI活用の他業種への拡大

山口市と災害時の電話対応における生成AI活用実証を実施

(2026年5月19日 当社ニュースリリース)

News Release



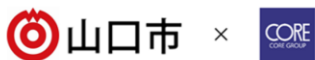
2026年5月19日
株式会社コア

山口市と災害時の電話対応における生成AI活用実証を実施

報告書作成にかかる時間が7割削減できることを確認
初動対応の効率化・迅速化と職員の心理的負担軽減に寄与

株式会社コア（本社：東京都世田谷区、代表取締役 社長執行役員：横山 浩二、以下 コア）は、山口県山口市（防災危機管理課）と連携し、災害時の電話対応の効率化と初動対応の迅速化を目的に生成AIを活用した電話受付支援システムの実証実験を実施したことをお知らせいたします。

災害時の電話対応における生成AI活用実証実験を実施



報告書作成の
効率化

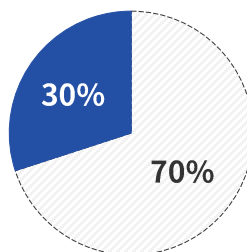
電話対応
品質の平準化

職員間の
迅速な情報共有

実証実験で高い評価を獲得

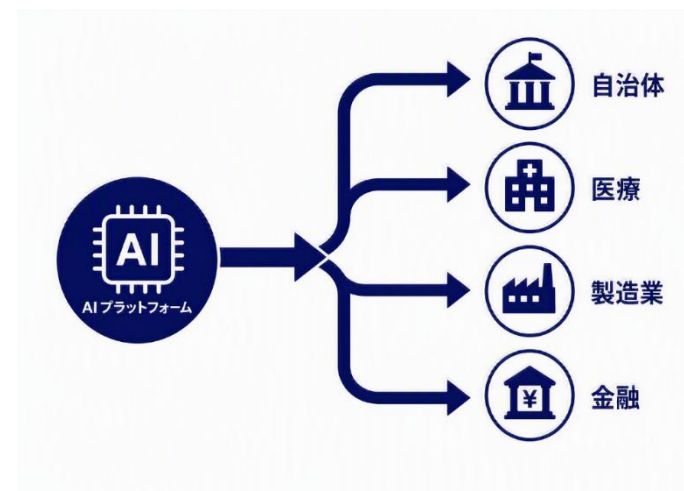
検証内容

- 通話内容の文字起こし
- 報告書自動作成
- 入力漏れの指摘



報告書作成時間を**70%削減**

公共分野での実績を起点に
同様の課題を抱える新たな市場への展開を推進

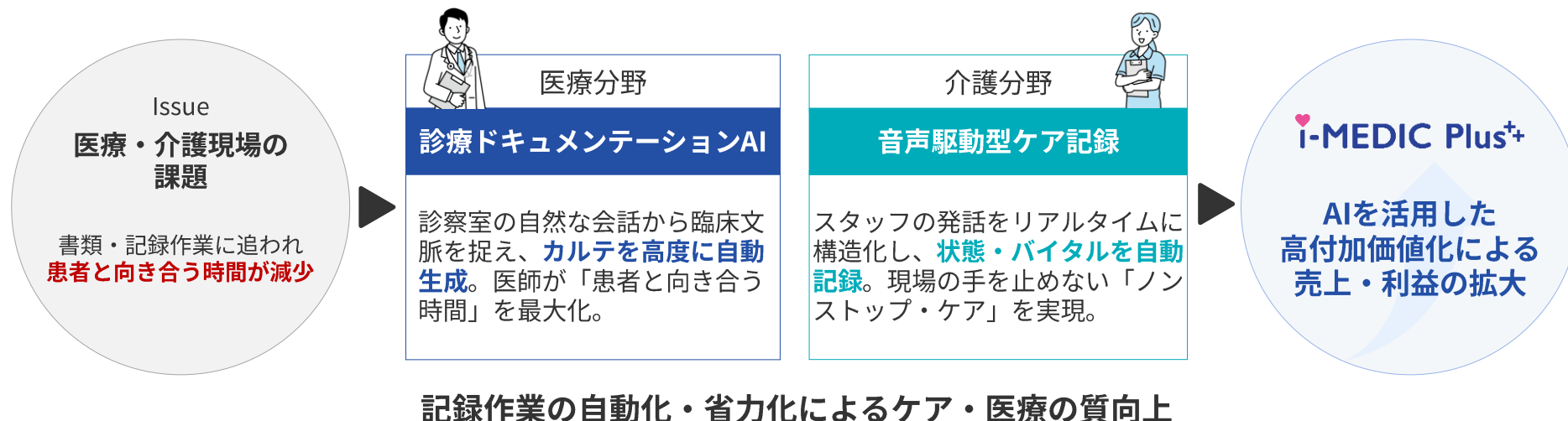


<https://www.core.co.jp/news/1079>

AIツールの投入による高付加価値の提供と高収益化の実現

- 2026年度の診療報酬・介護報酬改定に伴い、医療介護の情報連携および「地域包括ケアシステム」の深化が不可欠に。医療と介護の情報管理を1つのシステムに統合した電子カルテ「i-MEDIC Plus++」に対するニーズの高まりを受け、補助金活用コンサルティングを含めた営業活動を強力に推進。
- 医療・介護分野に向けて高付加価値AIツールの開発と市場投入を推進。医師・スタッフの記録作業をAIで補助し、「患者・利用者向き合う時間」の最大化に貢献。現場の体験価値向上を通じて「i-MEDIC Plus++」の付加価値を高め高収益化を実現。

高付加価値AIツールの投入による成長戦略

音声認識×生成AIによる
「i-MEDIC」シリーズの高付加価値化

2029年度の小型衛星への搭載に向け、オンボード PPP 受信機の開発に着手

～衛星データの提供時間を短縮し、災害対策やインフラ監視の高精度化に貢献～

- 「JAXA-STEPS」※に選定される。開発した測位受信機が新たに打ち上げられる小型衛星に搭載予定。
- GNSS受信機開発の実績と小型化・低価格化の知見をもとに、オンボードPPP技術の社会実装を加速。
- 災害対策やインフラ管理の高精度化に貢献するとともに、地上向けビジネスから宇宙向けビジネスへと事業領域を拡大。

※JAXA-STEPS：国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の実施するJAXA宇宙技術実証加速プログラム

地上から宇宙へ | オンボードPPP技術の社会実装による宇宙ビジネス領域への拡大

これまでの実績・知見をもとに、地上向けビジネスから宇宙ビジネスへ事業領域を拡大



手軽な導入から高度な位置管理まで、顧客のDXステップに寄り添う資材管理ソリューションを展開

- 建設・港湾・製造現場では、資材管理の属人化や資材探索による作業ロスが課題。
- スマートフォンで資材位置を可視化する標準パッケージを提供し、運用拡大に応じて高精度測位やシステム連携へ展開。
- 顧客のDX推進と業務効率化を実現し、標準パッケージから高付加価値サービスへの拡販により売上拡大を図る。

資材管理ソリューションの取り組み

背景/課題

①管理の属人化・ブラックボックス化

ベテランの「記憶」やアナログな台帳に依存



②紙・Excel管理による業務逼迫

入出庫のたびに手書き、Excel入力。

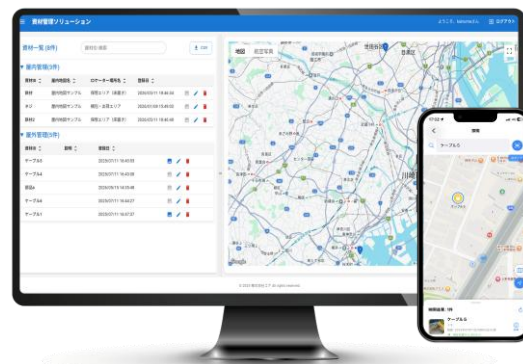


③資材探索に伴う時間ロス

広大な敷地を探索で多大な労働時間ロス。



ソリューションの提案



建設・港湾・製造の現場において
屋外保管の資材の位置を地図アプリで可視化
**スモールスタートで
ものを探す時間を大幅に削減**

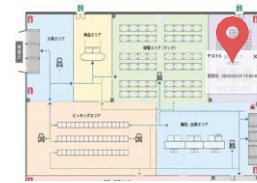
カスタムパッケージの提供による顧客のDX推進と業務効率化

基幹システム連携



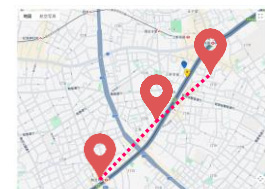
APIによるデータ連携

屋内位置管理



屋内地図での可視化

リアルタイム追跡



現在位置を地図で可視化

高精度位置測位



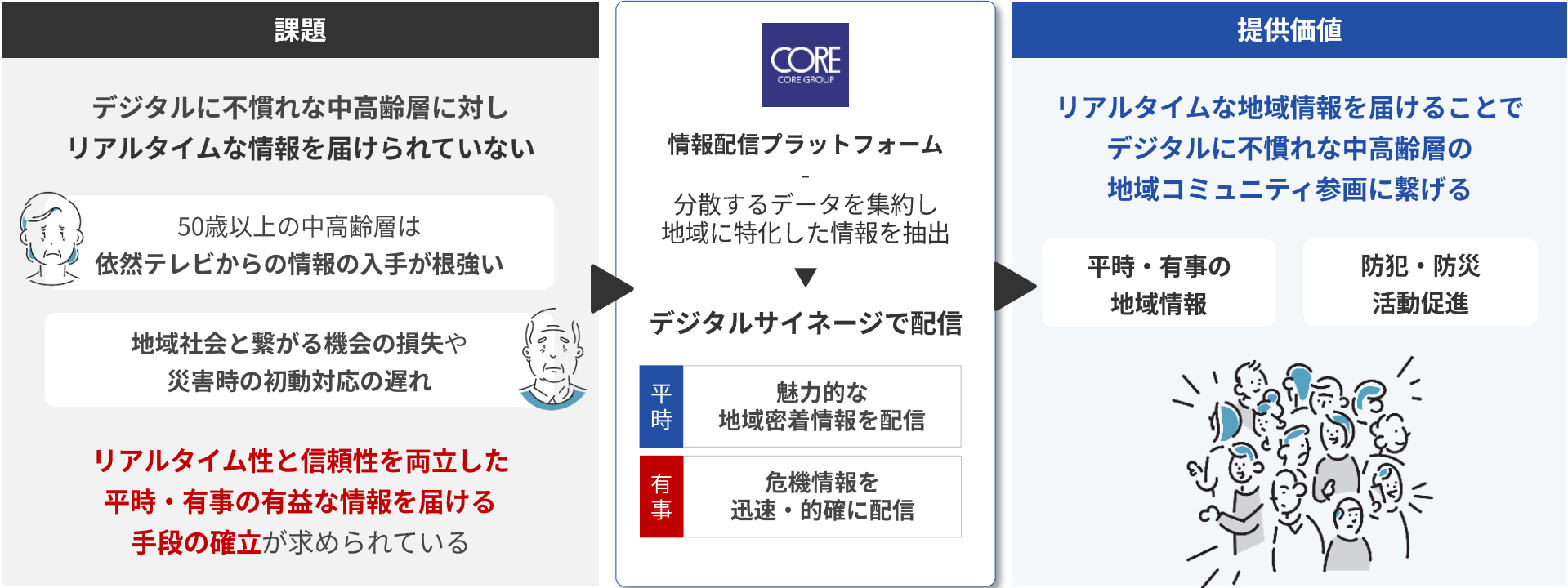
GNSS受信機との連携

より付加価値を

ICTに不慣れな情報弱者の情報アクセシビリティ向上による地域貢献

- ICTに不慣れな住民に対して、SNS情報などを活用した地域情報のリアルタイム配信を推進。
情報収集先がテレビ、新聞などアナログ媒体からの収集が多い高齢者に向けて、サイネージ活用で地域活性化に繋ぐ。
- 自治体の再開発事業に着目し営業活動を推進。
2026年度、首都圏の駅前再開発事業にて試験運用開始。次年度以降の予算獲得に向け各自治体向けの提案を強化。

情報配信プラットフォームの提案推進



AIファーストを実現するAI人材育成を本格化、研修プログラムを再構築

- 「AIリテラシーの向上」を目的とした基礎研修を強化。
- リテラシー研修修了者を選抜し、AI実装スキル習得を目的とした「実践特化型研修」を新設。

AI人材育成全体像

AIファースト

全社的なビジネスモデルとカルチャーを変革

AIリテラシー向上研修

300名規模のリテラシー習得研修

KPI：G検定 合格率60%超

実践特化型研修

リテラシー研修修了者を対象とした選抜型研修

**自社ソリューションへのAIの実装
AIエージェント構築手法等の習得**

革新し続ける価値創造集団

創業以来の「挑戦」のDNAに発想力と柔軟性を融合し、
最新技術の活用による革新的な価値を創造

配当方針の変更と増配

- 従来の配当性向30%に加え、資本効率と還元下限を担保する「DOE（株主資本配当率） 4.0%」を導入（いずれか高い方を適用）。
- 配当方針の変更と併せ年間配当を 5 円増配し、65円とすることを決定。

配当方針の変更

- ・ 資本効率（ROE）の意識強化
- ・ 業績変動時の還元リスク低減

変更前	変更後
連結配当性向 30% を 目 途	連結配当性向 30% もしくは DOE 4.0% のいずれか高い方を 目 途

業績好調時のアップサイドに加え、
純資産に連動した下限配当を確保

中長期的な株主資本の成長
にあわせた株主還元

中間配当の増配

配当方針の変更に伴い、増配を決定

2027年 3 月期配当予想			
1 株当たり配当額 (円)		改定前	改定後
	中間	10	15
	期末	50	50
	合計	60	65

改定後の指標
配当性向 31.1% DOE 4.3%

本資料に含まれる計画や業績見通し等は、現時点における情報をもとに、当社が計画・予測したものであり、今後の経済動向や市場環境等の様々な条件・要素により変動する可能性があります。

そのため、実際の業績がそれらの記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを、予めご了承ください。

株式会社コア

〒 154-8552 東京都世田谷区三軒茶屋1-22-3 コアビル



03-3795-5111



www.core.co.jp